



■賢所での奉告後の殿下

悠仁親王殿下の ご成年式を拝して

皇室コメンテーター・キャスター

たかしみず
清水 有子
ゆうこ



古式ゆかしい平安絵巻さながらのご装束姿、我が国の長い歴史と伝統を体現された儀式に多くの国民は感動と誇りを抱いたであろう。令和7年9月6日、悠仁親王殿下19歳のお誕生日当日、皇室にとつては40年ぶりの親王殿下のご成年式が厳かに執り行われた。今年は戦後80年、昭和100年の節目の一年にまた新たな歴史が綴られたのだ。

■皇室にて40年ぶりのご慶事当日

当日の儀式のスタートから振り返る。まず午前8時45分頃「冠を賜うの儀」は秋篠宮皇嗣邸で行われた。モーニング姿の悠仁殿下は天皇陛下の勅使より成年の冠が納められた桐箱を受け取られた。そ

の後、宮邸玄関前にて、ご両親の皇嗣同妃両殿下と姉の佳子内親王殿下に見送られ、親王旗が掲げられた御料車で皇居へ向かわれた。この御料車は悠仁殿下の為に天皇陛下がご用意された特別な車両である。

午前10時、ご成年式を中心とする儀式「加冠の儀」は皇居宮殿の春秋の間で行われた。昭和の時代に天皇陛下、皇嗣殿下の「加冠の儀」もこの同じ広間で行われた。悠仁殿下が未成年の装束「闕腋袍」をお召になり、頭には40年前に父皇皇嗣殿下が成年式でお使いになった額あて「空頂黒幘」を着けてご入室。浅黄色の装束は肩から裾まで6メートルの長さがある。この日のためにリハーサルにあた

る習礼に臨まれたとはいえ、ご本人はもちろんご両親殿下の緊張とお気持ちを思うと、私自身、取材を通じて拝見してきた悠仁殿下ご誕生から現在までの様々なシーンがよみがえり感動で目頭が熱くなった。

天皇、皇后両陛下、皇嗣同妃両殿下はじめ皇族方らが見守る中、加冠役の侍従次長が空頂黒幘を外し、天皇陛下より賜った菊の御紋入りの冠をかぶせた。そして前皇嗣職大夫の宮内庁御用掛が冠を固定するための掛緒を結び、その緒の先を和ばさみで切り揃えた。パチン、パチン、という音の響きがこの儀式を象徴する印象的な場面である。さらに悠仁殿下がはっきりとした口調で「成年皇族としての自



覚を持ち、務めを果たして参りたい」と決意のお声もまた、さわやかに反響していた。終始悠然とした所作、まっすぐ前を見据えた凛とした佇まい、生まれながらの貴公子の品格溢れるお姿を拝して感動した国民も多いはずだ。

その後、悠仁殿下は成年の装束「縫腋袍」に着替えられ、馬車で宮殿をこ

午前11時頃、「宮中三殿に謁するの儀」で成年皇族として初めて殿上へ。右手に笏をお持ちになり、回廊を緊張した面持ちでゆっくりと進まれ、座って深々と一礼後、皇祖神天照大神がお祀りされている賢所の中へ。告文を奏上になり成年式を行った旨の奉告をされた。歴代天皇と皇族方が祀られている皇霊殿、我が国の神々が祀られている神殿にも同様に奉告された。

■歴代天皇の大御心を受け継がれて

私が特に印象的だったのは、賢所で奉告後、回廊にお出ましになった悠仁殿下のご表情である。泰然自若な自信と決意の光が、殿下の眼差しに表われていたか

らだ。歴代天皇が常に私事より最優先してきた祈りの神聖な場所で、皇祖神から目には見えないけれど確実な追風と励ましの力を得られた証のように見えた。悠仁殿下にとっては成年皇族としての誓いを再確認するような尊いひとときを神々と共有されたのだ。

午後には「松の間」にて「朝見の儀」が行われた。燕尾服姿の悠仁殿下は颯爽と天皇、皇后両陛下の前に歩みを進められ、美しい一礼の後に感謝の挨拶をされた。天皇陛下からは「皇族としての務めを立派に果たされるよう願っています」と励まされ、皇后陛下からは「どうぞお元気に様々な体験を積みまますよう祈っています」と。両陛下と悠仁殿下は「九年酒」という黒豆と日本酒などを煮詰めたお酒で杯を交わし、儀式用の御膳のお料理に箸を立てる所作を行い成年をお祝いした。

夜には祝宴が催され列席者には「ボンボニエール」が記念の品として贈られた。悠仁殿下のお印である高野槇と幼少時代からの研究テーマのトンボがデザインされた悠仁殿下オリジナルのお品だ。次回

のオリジナルのボンボニエール登場は御結婚の機会となる。8日には伊勢の神宮（三重県）、神武天皇陵（奈良県）へ、9日には武蔵陵墓地で昭和天皇陵などに奉告の参拝をされて一連の成年行事は完了となった。

■我が国の歴史と伝統の重み

親王殿下の成年式のはじまりは、第45代聖武天皇が皇太子時代の元服の行事で1300年以上の歴史がある。時代にあわせた変化もあるが核心は変えずに現在に至っている。世界最古の我が国の歴史と伝統を目の当たりにした我々はなんと幸せなことかと実感する。

儀式当日、私は毎年恒例でお誕生日のお祝いのため皇嗣邸に参邸した。赤坂御用地異門から皇嗣邸までの道のり、樹々の美しい緑と青空のもと清らかな風に吹かれ、セミの大合唱が、おめでとう々と響くBGMのように感じた。ここ数年の秋篠宮家バッシングの不敬な空気を吹き飛ばすような、悠仁殿下の圧倒的な威厳と風格に、私は皇室の明るい未来を実感した。弥栄！